Kochi Bach Kantaten Verein 2024

高知バッハカンタータフェライン
第27回演奏会

◆曲目
J.S.バッハ作曲
カンタータ第12番
カンタータ第61番
カンタータ第153番
J.ブラームス作曲
モテット作品74-2

◆指揮・バス：小原浄二
◆合唱：高知バッハカンタータフェライン

日時：２０２４年 **３**月**１０**日（日）
開場13：３０　開演14：００
会場：高知県立美術館ホール
入場料：一般　２，５００円（当日３，０００円）
学生　１，０００円（当日１，５００円）
※未就学児の入場は御遠慮下さい

◇主催：高知バッハカンタータフェライン
◇後援：高知新聞社・朝日新聞高知総局・毎日新聞高知支局・読売新聞高知支局・NHK高知放送局・RKC高知放送・KUTVテレビ高知・KSSさんさんテレビ
◇プレイガイド：高知県民文化ホール・かるぽーと・美術館ミュージアムショップ・楽器堂オーパスイオン店・オーパスクラブ
◇お問い合わせ：TEL　０８８-８４０-６８６４　e-mail:k-verein@hotmail.co.jp

【演奏曲目】

～J.S.バッハ作曲～

カンタータ第12番BWV12

「泣き、歎き、憂い、怯え」

カンタータ第61番BWV61

「いざ来ませ、異邦人の救い主」

カンタータ第153番BWV153

「見給え、御神、いかにわが敵ども」

～J.ブラームス作曲～

モテット作品74-2

「おお救い主よ、天を引き開け」

※曲目は変更される場合があります

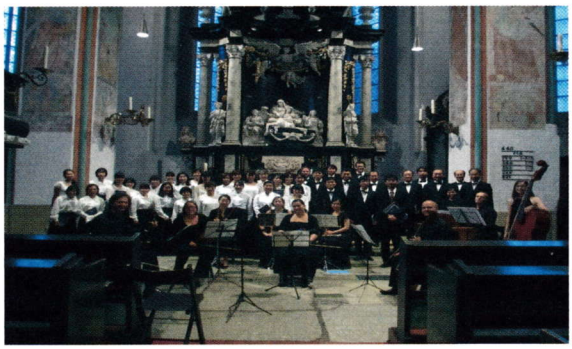
【出演】

ソプラノ：加藤亜弥
カウンターテノール：上杉清仁
アルト：小原伸枝
テノール：畑儀文・川村拓也
バス：小原一穂・小原幸季
ヴァイオリンⅠ：須賀麻里江・大谷美佐子
ヴァイオリンⅡ：宮崎桃子
ヴァイオリンⅡ・ヴィオラⅡ：三輪真樹
ヴィオラ：吉田篤
チェロ：西澤央子
コントラバス：櫻井茂
オーボエ：尾崎温子
チェンバロ：平野智美

小原浄二【指揮・バス】

岩手大学教育学部卒業後、東京芸術大学音楽学部声楽科に進学し首席で卒業。松田トシ賞受賞。同大学院修士課程独唱科修了。声楽を、佐々木正利、伊藤亘行、多田羅迪夫の各氏に師事。ドイツリート、オラトリオを中心に研鑽を積み、東京芸大時代には小林道夫氏のもとバッハカンタータクラブに所属し、研究・演奏を行う。その後、国内外の演奏会にソリストとして出演。1991年にはウィーン楽友協会ホールにおいて、ブラームスの「ドイツレクイエム」、また1993年にはシュトゥットガルト、ケルン、ドレスデン、ワイマール等において、フォルトナー「ヘルダーリンの詩による歌曲」を歌い好評を博す。1992年～1994年には、鈴木雅明氏が音楽監督を務めるバッハ・コレギウム・ジャパンのコーラスマスター及びソリストとして活躍。その他、東京ゾリステン合唱団、水戸バッハコレギウム、茨城大学混声合唱団などの指揮や指導を歴任。1994年～1995年ドイツ留学し、H.クレッチマール氏に師事。留学中も積極的に演奏活動を行い、特に、ミュンヘン、ヘラクレスホールにおけるニュルンベルク交響楽団定期公演、J.ツィルヒ指揮、ハイドン「天地創造」バスソロなどは、現地新聞紙上において絶賛される。帰国後も全国各地に招かれソロ活動を行い、宗教音楽の世界的名指揮者である、H.J.ロッチュ、G.Ch.ビラー等との共演や、新日本フィルハーモニー交響楽団定期公演における、G.ボッセとの共演のほか、関西フィル、オーケストラ・アンサンブル金沢、紀尾井シンフォニエッタ東京、スウェーデン放送合唱団との共演などで高い評価を得ている。1997年、高知バッハカンタータフェラインの創設に携わり、以降指揮者として指導にあたっている。高知大学教育学部教授。同附属特別支援学校校長。

高知バッハカンタータフェライン【合唱】



1997年4月、高知大学小原浄二氏の呼びかけにより、J.S.バッハを中心とするバロック及び古典の声楽作品を研究・演奏する団体として発足。メンバーは合唱経験も年齢も多種多様だが、小原氏の指導のもと心を一つに練習に励んでいる。1998年3月の第1回演奏会以来、毎年春に演奏会を開催。バッハのカンタータ多数・ヨハネ受難曲・モテット、モンテヴェルディやシュッツ、ヘンデル等の作品を取り上げ、“土佐の地にもバッハを”の想いのもとに意欲的な活動を行う。2002年にはドイツから初来日したライプツィヒ・バロック・オーケストラと共演し、コンサートマスターより「光を放つような素晴らしい合唱」と高い評価を得る。また、その縁から2004年夏にはドイツ演奏旅行を果たし、アイゼナハ、アイスレーベン、ライプツィヒなどバッハゆかりの地での演奏会に出演。その暖かい音色と確かな表現力は現地でも絶賛された。更に2008年(第2回)、2012年(第3回)、2016年(第4回)、ドイツ演奏旅行を重ねる。演奏会はいずれも好評を博し、現地聴衆より「これまで聴いてきたバッハの中で、最も心に響くものだった」「大変内容の濃い演奏であり、深く感動した」「ドイツ人でも難しいテキストの発音が完璧だった」などの賞賛を得た。近年は、バッハの作品を地元の教会で演奏させて頂きたいという想いから、高知市内のカトリック中島町教会、日本福音宣教会高知西福音教会、清和女子中高等学校チャペル、日本基督教団高知教会、日本基督教団土佐教会などでコンサートを行っている。そして2022年3月、初の東京公演を創立25周年記念演奏会として浜離宮朝日ホールで開催し大きな反響を得た。